

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019年 6月

「彼を知るために」「イエス・キリストの二重の性質 (1)」「もうひとつの声」「麩ときゅうりの酢の物」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

イエス・キリストの二重の性質 (I) 4
聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために 7
That I May Know Him

現代の真理

「もうひとつの声」 38
神の憐れみの最後の招き

力を得るための食事

「麩ときゅうりの酢の物」 46
レシピ

お話コーナー

「アンナス、カヤパ、そしてサンヒドリンの前で (II)」 48
イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019年5月5日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on Front page, Sermon View
on page 38

キリストの教育法(Ⅱ)

—ヨハネに—

(「教育」86-100より)

「わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜った人々に、み名をあらわしました」(ヨハネ17:6)。

ペテロとヤコブとヨハネは、あらゆる機会をとらえては、できるだけ主イエスのそば近くにしようとしたが、彼らのこの願いはゆるされた。十二人の弟子たちの中で、この三人はキリストとの関係が最も密接であった。ヨハネは、だれよりも自分が最もキリストと親密であればそれで満足であったが、彼はこの親密さを自分のものとすることができた。ヨルダン川のほとりで、初めてキリストの教えをうけたとき、アンデレは、イエスのみ言葉をきくとすぐ兄弟を呼びに走ったが、ヨハネは、黙ってすわりこんだままキリストの不思議な話題を夢中になって考え続けていた。ヨハネは、救い主に従って、いつも熱心に、余念なく、そのみ言葉にきき入った。…イエスは、ヨハネの利己主義を責め、野心をくじき、信仰をためされた。そのかわりキリストは、彼の魂が憧れ求めていたところのもの、すなわち聖潔の美しさと、人の心を変化されるキリストの愛を、彼のうちに表された。キリストは父なる神に、「わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜った人々に、み名をあらわしました」と仰せになった。

ヨハネは、愛や同情や交友にあこがれる性質を持っていた。彼は、イエスのそば近くにおし進み、そのかわりにすわり、イエスの胸にもたれかかった。花が太陽と露をもとめるように、彼は天来の光と生命を吸いこんだ。愛と崇敬の念をもって救い主を仰ぎ見ているうちに、キリストのみかたちに似ることとキリストと親しく交わることが、彼の唯一の願いとなり、彼の品性には主イエスのご品性が反映した。彼はこう言っている。「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする」(ヨハネ第一 3:1-3)。

第11課 イエス・キリストの二重の性質（I）

完全な神 – 完全な人

単純な電話はもっとも便利な発明です。電話の使用は、量やスピードや力を比べるとき、近代的な旅行や交通の技術をしのいでいます。それらは両方とも産業や発達の必要をつなぐものではありませんが、電話は個人的な接触のために即時に接続します。電話は時間と空間の隔たりに架け橋をわたし、わたしたちを家庭、友人、あるいはビジネスの必要とつなぎます。わたしたちがしなければならぬことは、ただそれを取り上げて、ダイヤルすることです。

さらに深い心の切望や安心の場合には、これらのつながりは思いの健全さと平安にとってライフライン（命のつながり）です。不思議なことに向かうことのできる電話も友人もない人々がたくさんいます。孤独と絶望において、頼るべき友人や通信のつながりがなく、心痛と重荷が危機や必要を通じて重くのしかかります。

霊的な生活において、どれほど多くの人々が同じような苦しみにあっていることでしょうか。どれほど多くの人々が生涯を通じて孤独であり、天と地の隔たりに橋を架ける通信のつながりが手に入るという恩益を無視し、あるいは知らずに重荷を負っていることでしょうか。このつながりは全人類が手に入れることができるものであり、また生活の重荷を軽くし、生涯を高尚にし、わたしたちを天と調和させるようなつながりがわたしたちに保証されているのです。わたしたちがしなければならぬことは、ただ神が設置して下さった天の線を用いることだけです。

何がこの通信のつながりでしょうか。9課ではこのつながりのためにわたしたちのなすべき分が祈りであることを明らかにしました。しかし、何が実際に地を天につなげる電話線なのでしょう。つながりが何であろうと、それは完全につながり、人間の窮状を理解するものでなければなりません。そのようなつながりが、罪深く死につつある世界と完全な天の調和との間に、どうしたら可能でしょうか。

神がご自分の御子イエス・キリストのうちに備えて下さった完全なつながりを見てください。イエスは神と人との隔たりに架け橋をわたす大使あるいは仲保者と

して語られています。この事実は多くの聖書を学ぶ聖徒たちを困惑させてきました。どのようにして、キリストの性質の割合はどうなのでしょう。人間なのでしょうか、神なのでしょうか。

イエス・キリストとはだれでしょうか。ただの人、社会福祉人、偉大な預言者なのでしょうか、あるいは神だったのでしょうか。

イエス・キリストはこれらのすべてのものであられ、且つそれ以上でした。歴史はこのお方の存在を確認しており、全歴史書の中で最大の書物—聖書—はこのお方の生涯を記録しています。そのページは、わたしたちが知る必要のあることをすべて明らかにしています。このお方には多くの肩書きがありました。その中のいくつかは次の通りです。神の小羊（ヨハネ 1:36）、大祭司（ヘブル 4:14）、アルパでありオメガ（黙示録 21:6）、命のパン（ヨハネ 6:35）、もろもろの王の王（テモテ第一 6:15）、メシヤ（ヨハネ 4:25）、言（ヨハネ 1:1）、ユダ族のしし（黙示録 5:5）、神のかたち（コロサイ 1:15,19）。

聖書から、わたしたちはイエスが「神の御子」であられながら、その一方で「ダビデの子孫」—神であり人—であられたことを学びます（ローマ 1:1-4）。これはこのお方の他の肩書きと同じように複雑な概念を与えます。それらはわたしたちにこのお方のご品性を教えます。それらはわたしたちに「このお方は神」—わたしたちの創造主、導き手であり相談者であられることを告げます。そしてまた「このお方は人」—わたしたちの兄弟、救い主、友人であられることを告げます。しかし、もう少し近くからこのお方のキリストの二重の性質を見てみましょう。

イエスは神であられる

旧約聖書と新約聖書は、イエスが神であられたことについて疑いの余地を残していません。イザヤ 9:6 には、神聖な目的のために起こされた特別な子に関して描写しています。イザヤ 43:3, 11, 14, 15 において、聖なるお方が地上にこられることが預言されていましたが、悲しいことに、使徒行伝 3:14, 15 では、このお方が拒絶され、否定され、殺されたと記録されている。「主は仰せられる。見よ、わたしがダビデのために一つの正しい枝を起す日がくる。彼は王となって世を治め、栄えて、公平と正義を世に行う。その日ユダは救いを得、イスラエルは安らかにおる。その名は『主われらの正義』ととなえられる。」（エレミヤ 23:5,6）。この聖句は、どの家系から王であり裁きをする方が来られるかを預言しています。

彼の出生地、およびこのお方がとこしえに先在しておられることについても預言されています。「しかし、ベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちからわたしのために出る。その出るのは、昔から、いにしえの日である。」(ミカ 5:2)。

イエス・キリストは神の息子と呼ばれました。しかし、人間の理解では、「息子」とは男の子が生まれることを指します。しかし、聖書は、キリストの先在性は被造物としてではないことを明確に示しています。ヨハネによる福音書 1:1-3 は、「言は神であった」と記録しています。また、「すべてのものはこれによってできた」と書かれています。聖句の 14,15 は、この「言」は「父のひとり子」であると記録しています。コロサイ 1:15-19 は、「神の御子」であるということが何を意味を説明しています。イエスは、見えない神のかたちであり、「長子」すなわち、全ての被造物の「継承者」でした。なぜなら、このお方がそれら全てを創造されたからです(聖句 16)。ひとり子ということは、単独の相続権を示しており、彼が超越していること、最も高い地位にあり、最も重要であることを示しています。このお方は神によって創造されたわけではありません。イエスは、ご自身について、「わたしはいる」(ヨハネ 8:58)と宣言しておられます。この「わたしはいる」という名称は、モーセに対しても示されました(出エジプト記 3:14)。その結果として、ユダヤ人達は、「石をとってイエスに投げつけようとし」ました(ヨハネ 8:59)。なぜなら、神への冒とくは、死の制裁の対象だったからです。彼らは、イエスの性質を理解しておらず、またイエスが神と共に存在しておられることを理解していませんでした。

「わたしと父は一つである」。イエスは、ご自分と神が本質的に一つであり、同じ属性を有していることを宣言されました。世の救い主は、神に等しいお方でした。イエスの権限は神としての権限でした。神から離れたかたちでイエスが存在することはありえないことをイエスは宣言されました。

イエス・キリストがわたしたちの創造主であることを認めた場合、このお方の神性を認めざるを得ません。人間は、神のかたちに造られましたが、また「キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死にいたるまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。」(ピリピ 2:6-8)。

彼を知るために

That I May Know Him



6月

6月1日

わたしたちの心に新しい歌

「主は新しい歌をわたしの口に授け、われらの神にささげるさんびの歌をわたしの口に授けられた。多くの人はいくを見ても恐れ、かつ主に信頼するであろう。」(詩篇 40:3)

キリストを信じる者は、神の栄光を示すためにキリストと一つになる。それにより、神はその者の口に新しい歌を、主を讃美する歌を授けて下さる。彼は日々、主に似るために、キリストをもっと知ろうと望む。彼は霊的事柄を識別し、キリストを瞑想することを喜ぶ。主を見つめることによって気づかないうちに、キリストのみ姿に変えられる。……自分のできることで主に受け入れられようとしないで、キリストの義のいさおしに全的により頼む。しかし彼は怠惰であっては神の子供になれないことを知っている。彼はキリストのあかしであり、かつ完全な模範を示す聖書を研究する。……

尊い真理が彼の心に明らかにされ、彼は魂の内なる聖所にそれを受け入れる。永遠の栄光と価値が彼の前に開かれているので、世の魅力は彼にとって弱まる。彼は使徒と共に「わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である」(コリント第一 2:12) と言うことができる。……

神の事柄に真の経験を持つ者は暗黒の中にいる者に無関心ではなく、イエスは助けを必要としているこれらのあわれな魂に何と言われるだろうかと尋ねる。彼は自分の光を輝かそうとする。彼は疲れた者に時になつた言葉を出すことができるように知恵と神の愛と機知を祈り求める。つまらない会話やしゃれまた冗談を言う代わりに、彼は神の恵みの忠実な管理人として、機会を生かす。そして、まかれた種は芽をだし、永遠に至る実を結ぶ。彼の魂には命の源があり生ける水が流れ出す。……

これがあなたの経験だろうか。あなたはあなたの生けるかしらであるキリストに成長しているであろうか。……青年よ、キリストのご生涯を熟考し、模範であられる方を真似なさい。(ユース・インストラクター 1892年12月22日)

ゆきづまることはない

「わたしたちの神と救主イエス・キリストとの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を授かった人々へ。神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。」(ペテロ第二 1:1, 2)

神の義、救い主イエス・キリスト—という主題は瞑想するのに何という大きな主題であろう。キリストと主の義を瞑想すると、ひとりよがりや自己称賛の余地を残さない。この瞑想にはゆきづまるということがない。キリストを知る知識における各段階には絶え間ない進歩がある。キリストを知ることによって命は永遠になる。イエスは祈りの中で「永遠の命とは、唯一の、真の神でいますあなたと、また、あなたがたがわされたイエス・キリストを知ることあります」(ヨハネ 17:3)と言われた。わたしたちは神を誇りとすべきである。……「あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとにられたのである。それは、『誇る者は主を誇れ』と書いてあるとおりである」(コリント第一 1:30, 31) ……

わたしたちはキリストの知識に召されてきた。それは、栄光と徳の知識に対してである。わたしたちを神に交わせるのはイエス・キリストにあってわたしたちに示された、聖なるご品性の完全の知識である。欲情によるこの世界の墮落からのがれて、神性にあずかるのはこの偉大な尊い約束によってである。

神のみ言葉に聖なる確証を持っている青年の前に何という可能性が開かれていることであろう。人の心は、神性にあずかることによって到達できる霊的達成の広さ深さ高さをほとんど知ることができない。神に服従し、神性にあずかる人間は神と一つになっているので、神の戒めを守ることに喜びを見出す。彼は、御子が天父にそうであるように神との関係を最も大切なこととして保つ。(ユース・インストラクター- 1895年10月24日)

何という特権、祝福が、キリストの弟子として尊い信仰を持つ者に許されていることであろう。彼らに与えられないものはない。(同上 10月31日)

6月3日

足し算と掛け算

「いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。」(ペテロ第二 1:3)

わたしたちは弱く、罪深い人間であるが、キリストの学校で日々教訓を学ぶことによって、聖なるみ姿と調和することによって、主の優れた品性を現わすことによって、恵みに恵みを加えることによって、一段一段と天に向かって階段を上ることによって、愛されたお方内に完全になることによって、栄光と徳とに至ることができる。わたしたちが恵みに恵みを加える信仰によって足し算の計画に努める時、神は掛け算のご計画を進められ、わたしたちに恵みと平和を倍増される。……

もし、わたしたちの青年がこの事柄の中にある法則に注意し、実行するならば何という感化力を正しい側に働かすことであろう。……彼らが違反していた律法は束縛のくびきではなく、自由の律法、子であることの自由のものとなるであろう。神に対して悔い改め、キリストにあつて信仰を働かすなら、彼らは許しを経験し、金や純金に勝って神の律法を尊重するであろう。

イエスは、罪の身代わりである。主は、わたしたちの罪を取り去られ、わたしたちをご自分の聖にあずかる者とされる。なんとという優しいあわれみの愛が、キリストの心の中に主の血で買い取られた者に対して宿っていることであろう。主は、主によって神に来る者を完全に救うことができる。これらの尊い約束の中に力がある。そして、わたしたちは、主の奉仕のために神が与えられたわたしたちのタラントのすべてを捧げることによって、キリストの働きに協力するべきである。その時、聖霊は、キリストの栄光と誉れのためにわたしたちを通して働かれる。

学生たちは、何がクリスチャンであることを意味するのかについて、発展し伸び広がる考えを持つべきである。クリスチャンであるということは、キリストの学校で学ぶ者であるということの意味する。それは魂と心と体が、聖なる知恵と交わっているということの意味する。この結合が魂と神の間に存在する時、知恵と知識をお与えになる神から学ぶのである。主の御霊は、明らかで、聖なる思想を伝え、永遠に生きる知識を与えられる。献身的で、勤勉で……心から熱心に主に仕える者は、永遠の報いを刈り取る。(ユース・インストラクター 1896年10月31日)

あなたが成長する時

「そして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。栄光が、今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アメン。」(ペテロ第二 3:18)

青年がイエスにあつて成長するとき、霊的恵みと知識において成長するのは彼らの特権である。聖書を深い関心を持って綿密に調べ、その中に表わされた真理と義の道に従うことによって、わたしたちがさらにイエスを知ることができる。恵みに成長していく者は信仰がしっかりとしており前進する。最高のクリスチャン標準に到達するためにイエス・キリストの弟子になろうとし、キリストと働く者になろうと志す熱心な希望が青年の心にあるべきである。もし彼が神のみ座の前に過失のない者とされることを目標とするならば、彼は絶えず前進する。着実であり得る唯一の方法は日々聖なる生活に進歩することである。疑いと障害の戦いに置かれた時、それに勝利すれば信仰は増大する。……もし、あなたが、イエス・キリストの恵みと知識に成長するならば、キリストのご生涯とご品性の知識をもつと得るためにあらゆる特権と機会を活用するであろう。

イエスにある信仰は、主の汚れないご生涯と無限の愛にとどまることによって贖い主をもつとよく知るようになる時、成長する。……あなたが恵みに成長する時、宗教的集会に出席することを愛する。そして、あなたは、喜んで会衆の前でキリストの愛の証をする。主の恵みによって神は青年を慎み深くし、子供たちに知識と経験を与えられる。彼らは日々恵みに成長する。あなたの生活の目標はヨセフやダニエル、モーセがしたように高くしなさい。そして品性建設の値を考慮に入れ、時と永遠のために建設しなさい。

あなたが自分自身のためにこの努力をするとき、他人に多くの感化力を及ぼす。正しい方法で出される希望、勇気、決定の言葉は何という大きな力を品行に傾いている人に与えることであろう。正しい原則を遂行するにあたって、あなたが持っているしっかりした目標は、正しい方向に魂のバランスを保つ影響力を持つ。あなたが善を成すのに制限はない。(ユース・インストラクター 1886年9月1日)

6月5日

キリストのみ姿に達すること

「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ 4:13)

永遠という巨大な問題は、架空の宗教以上のものをわたしたちに求める。礼拝の威厳ある形式や非常に敬虔な儀式が、世に対する光となるのではない。それでいながら、多くの人々は、礼拝者に求められるのは、美しい絵画やうるわしい花々と同じように見てあこがれながら、魂の内なる宮には持ち込まれない真理がすべてだと考えている。……

わたしたちは門をくぐって都に入るとき、永遠に救われる。その時、わたしたちは救われたことを、すなわち永遠に救われたことを喜ぶであろう。しかし、その時までにはわたしたちは、使徒の命令に注意を払う必要がある。つまり「それだから、神の安息にはいるべき約束が、まだ存続しているにもかかわらず、万一にも、はいりそこなう者が、あなたがたの中から出ることがないように、注意しようではないか」(ヘブル 4:1)である。カナンの知識を持つことやカナンの歌を歌うこと、またカナンにはいる期待で喜ぶことが、イスラエルの子供たちを約束の土地のぶどう畑や、オリーブ畑に入ることにはならなかった。彼らは、それを専有することにより、条件を満たすことによって、また、神にある信仰を働かすことにより、主の約束を自分自身に当てはめることによってのみ自分のものにすることができた。……キリストはわたしたちの信仰の創始者であり、完成者である。そして、主のみ手にゆだねるとき、わたしたちは主と救い主の恵みと知識に着実に成長する。わたしたちはキリストにある男女の完全な姿に到達するまで進歩するのである。信仰は、愛によって働き、魂を清め、神の律法に反逆し違反するように仕向ける罪への愛を排除する。……聖霊の働きによって、品性は改変され、人間の心と意志は、聖なる意志に完全に一致するようになる。そしてこれは義の聖なる標準に一致することである。このように改変させられる者に対して、キリストは「命の木にあずかる特権を与えられ、また門を通して都に入るために、その戒めを守る者たちは、さいわいである」(黙示録 22:14 英語訳)と言われる。(ユース・インストラクター-1898年2月17日)

あなたは成長しているか

「愛あって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」(エペソ 4:15)

あなたの感情が揺り動かされ、あなたの精神が真理によって感動を受けるからといって、あなたがクリスチャンであるという証拠にはならない。問題は、あなたの生ける頭であるキリストに成長しているかということである。キリストの恵みがあなたの生活に表されているであろうか。神は人に恵みを与えて、人が神の恵みをますます願うようにして下さる。神の恵みは人の心に働きかけ続けており、恵みが受け入れられた時に、その証拠が、受け入れた者の生活と品性に表される。なぜなら霊的な命が発展していることが内側から表れるからである。心の内にあるキリストの恵みは、常に霊的命の発育を助け、霊的成長を促す。わたしたちは個人的な救い主を必要としている。さもなければ、罪に滅んでしまう。自分の魂に質問してみよう。わたしたちは生きている頭であるキリストに成長しているだろうか。神について、また神から送られたイエス・キリストについての進んだ知識をわたしは得ているであろうか。わたしたちは、植物が畑で成長しているのを見てはいない。しかし、それが成長することは知っている。そうであれば、わたしたちは霊的力と成長を知らないですまされようか。(レビュー・アンド・ハルト 1892年 5月24日)

真のクリスチャンであれば、心は柔和、優しさ、親切に満ちている。なぜならイエスがわたしたちの罪を許されたからである。従順な子供として、わたしたちは主が与えて下さった戒めを受け入れ、大切に、主が定められた儀式に出席する。わたしたちは常に主についての知識を得ようとするであろう。主の模範がわたしたちの生活の規則となる。キリストの弟子である者は、主が残された仕事をなし、主のみ名において、それを前進させる。彼らは主のみ言葉、み心、行いだけを真似る。彼らの目は、救いの指揮官に注がれる。主のみ心が、彼らの法則である。そして彼らが進歩すれば、さらに、そしてはっきりと、主のみ姿、品性、栄光を見る。彼らは、自己にしがみつかず、主のみ言葉をしっかりと握る。……彼らは、主のみ心の知識を実行に移す。彼らはイエスが教えられたことを聞いて行こう。……主のみ言葉のすべてのみ約束を受け入れる。キリストと一つになって神のみ心を行い、主のみ恵みの富を表す。(同上 1891年 8月4日)

6月7日

成長と実を結ぶこと

「わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い知識において、するどい感覚において、いよいよ増し加わり、それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり」(ピリピ 1:9, 10)

主はご自分に従う者が恵みに成長し、彼らの愛がもっと豊かになり、義の果実に満たされることを望んでおられる。……命があれば成長し、実を結ぶ。しかし恵みに成長しないならば、わたしたちの霊性は成長が妨げられ、弱々しくなり、実を結ばなくなる。わたしたちに対する神の目的をわたしたちが実現させることができるのは、成長し、実を結ぶということだけによるのである。キリストは、「あなたがたが実を豊かに結ぶ……ならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう」(ヨハネ 15:8)と言われた。多くの実を結ぶためには、わたしたちの特権のすべてを使わなくてはならない。力を得るために、わたしたちに許されているすべての機会を用いなければならない。

純潔で高貴な品性が大きな可能性をもって、すべての人に与えられてきた。しかし、その品性を熱心に追求しない人が多い。彼らは善を得るために悪を捨てようとしな。大きな機会が、彼らの届くところに置かれている。しかし彼らは、自分を神と調和した者にする祝福を得ようとしな。彼らの善を求めておられる方と、食い違ったことを彼らはしている。彼らは、枝に連なっていないので、死んだ枝になっている。彼らは成長できない。

成長に対する聖なる法則の一つは、伝えることである。クリスチャンは、他人を強めることによって力を得るべきである。「人を潤す者は自分も潤される」(箴言 11:25)。これは、単なる約束ではない。聖なる法則、大洋の水のように博愛という流れが、絶えず循環して、もとの源に常に返っていくように神が定められた法則なのである。……

クリスチャンよ、キリストがわたしたちの中にあらわされているであろうか。わたしたちはたやすく弱らない体を得るために全力を尽くして、すべてのことを行っているであろうか。また自我を捨ててあらゆる行動の原因と結果を注意深く見る心と、困難と取り組みそれに勝利する心、そして悪に抵抗し、正義を堅く守る意志を得るために全力を尽くしてすべてのことを行っているだろうか。キリストにある男女の完全な姿に成長しているだろうか。(サイン・オブ・ザ・タイム 1901年6月12日)

真の清めのしるし

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全きよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。」(テサロニケ第一 5:23)

清めの働きは、心に始まるので、イエスをご自分の聖なる特性を、わたしたちの上に置くことができるような、神との関係に來なければならぬ。わたしたちはイエスに場所を与えるために、自己を空にしなければならない。しかし、なんと多くの人が心を偶像でいっぱいにしており、世の救い主のために場所を持っていないことであろう。世は人の心を捕虜にしている。彼らは、自分の思想や感情を、仕事、家族、地位に集中している。自身の意見や方法に固執し、心の中で偶像として大切にしている。……わたしたちは自己を空にしなければならない。しかしこれだけがすべてではない。偶像を捨てた時、真空がうめられなければならないからである。……

あなたの心から自己を取り去った時、あなたはキリストの義を受け入れなければならない。信仰によってそれを手に入れなさい。……もしあなたが心の扉を開くならば、イエスは、御霊の賜物によって真空をうめてくださる。そしてその時あなたは、家庭、教会、世にあつて生きた説教者になることができる。あなたは、光をまき散らすことができる。なぜならば、義の太陽の輝く光があなたの上に輝いているからである。あなたの謙遜な生活、聖なる会話、正直と清さは、あなたが神の子であり、天の世継ぎであつて、世をあなたの住まいとはしていない巡礼者であり、ここでは寄留者であり、よりよいみ国、天を待ち望んでいる者であるということまわりの者に伝える。(ビュー・アンド・ワールド 1892年2月23日)

世を正しく制していくためには、単にうわべだけの、名ばかりの信仰をキリストに持つだけでは、不十分である。多くの人は、イエスが神の子であつたという事実に同意するが、信仰を持ち続けることに失敗している。イエスが、魂に対して、至高のものにならなければならないのである。(同上)

真の潔めは、神のすべての戒めに対する良心的な関心によって、またあらゆるタラントの注意深い改善によって、用心深い会話によって、あらゆる行いにキリストの柔和を表すことによって証拠立てられるのである。(SDA バイブルコメンタリ-[E・G・初作コメン] 7巻 908)

6月9日

わたしたちのすべてであるイエス

「あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。」(コリント第一 1:30)

魂を清めるのは、キリストの品性の知識における成長である。贖罪のすばらしい働きを知り、評価することは彼を救いの計画を瞑想する者に改変する。キリストを見つめることによって、主のみ霊によるのと同様に、栄光から栄光へと、同じみ姿に変えられていく。イエスを見つめることは、高貴と洗練への過程である。……キリストの品性の完全さは、クリスチャンに対する激励である。

キリストを、心の外においてはならない。天使は主について「その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」(マタイ 1:21)と言った。イエス、尊い救い主!保証、助け、安全、平和はすべて主の中にある。主はわたしたちの負債の弁償者であり、わたしたちの希望をすべてかなえてくださる方である。わたしたちが神性にあずかる者となり、それによって、主が勝利されたように、勝利できる者になれるという思想は何と尊いものであろう。イエスは

わたしたちの希望に満ちている方である。主は、わたしたちの歌の旋律、この疲れた罪の世界にある大きな岩の保護である。主は、渴ける魂の生ける水である。彼は嵐の時の逃れの場所である。主は、わたしたちの義、清め、贖いである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1890年8月26日)

キリストの力は、人生の戦いと、あがきの中で、イエスに従うすべての者の慰め、希望、喜びの冠である。世の罪を取り除く神の小羊に真に従う者は進軍しながら「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」(ヨハネ第一 5:4)と叫ぶことができる。

世に勝つ信仰とはどのようなものであろうか。それは、キリストをあなた自身の個人的救い主とする信仰—あなたの無力、自分自身を救いには全く無能であることを認めて、唯一の望みとして、救う力のある助け主をつかむ信仰である。それは、失望することのない信仰、「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝った。あなたがたは、わたしの与える力を持つであらう」……「見よ、わたしはいつまでも、あなたがたと共にいる」と言われるキリストの御声を聞く信仰である。(同上)

不変の動機

「なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。」(コリント第二 5:14)

生活のすべてのことにおいて、クリスチャンは、キリストをあらわすようにし—主の奉仕を魅力あるものにしようとするべきである。だれにも不満の声をあげたり、ため息をついたり、また自分たちの試練や自己否定、犠牲を他人にこぼしたりして、その宗教を不快なものにさせないようにしなさい。短気や、いらだち、不平によって、あなたの信仰の告白を裏切ってはならない。御霊の恵みが、親切、柔和、忍耐、快活、愛の中に表されるようにしなさい。キリストの愛が、不変の動機であることを表しなさい。またあなたの宗教は環境に応じて、脱いだり着たりする衣服のようなものではなく、原則—(落ち着いた、しっかりした動揺しないもの)であることを表しなさい。何と、傲慢、不信、利己主義が、ガンのように、クリスチャンであると公言する人々の心の敬虔さをむしばんでいることか。彼らのわざに従って裁かれる時、遅すぎるとはあるが、どれだけ多くの人々が、自分たちの宗教は、イエス・キリストに認められない見かけだけは立派なごまかしにすぎなかったかを悟ることだろう。

イエスに対する愛は表され、感じられるものである。それを隠すことはできない。この愛は驚くべき力を発揮する。それは臆病者を勇敢に、怠惰な者を勤勉に、無知な者を知者にする。それは、どもる舌を雄弁に、眠っている知性を新しい命と、生き生きしたものに呼び起こす。それは失望を希望に、憂鬱を喜びに変える。キリストに対する愛は、その所有者が、主のために責任を受け入れ、また主の力を保持するように導く。キリストに対する愛は、患難にうろたえたり、辱めによって義務から離れたりするようにはさせない。(ビュー・アンド・ヘラルド 1887年11月29日)

純粋な愛はその働きにおいて単純であり、あらゆる他の行為の原則とは違っている。愛が世の動機と利己的関心とにつながる時、純粋でなくなる。神は、わたしたちが行う量よりも、どのぐらい愛をもって活動するかをもっと考慮なさる。愛は天の特性である。生まれながらの心はそれを創始することができない。この天の植物は、キリストが執行者として支配されるところにのみ生い茂る。愛の存在するところには生活の中に力と真理がある。愛は、善をなし、善の他には何事もなさない。愛を持つものは、聖なるものに実を結び、永遠の命に至るのである。(SDA バイブルコメンタリー—[E・G 初作コメン] 7巻 952)

6月11日

最初のことを最初に

「わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。」(コリント第二 4:18)

サタンは、絶えず将来の世界の栄光を暗くし、この世のことに、すべての注意を引こうと働いている。わたしたちの思いや心配ごとや骨折りが、全く世俗のことに費やされ、わたしたちが永遠の現実の価値を見たり、知ったりしないようにとサタンは物事の手はずを一生懸命整える努力をしてきた。世とそのわずらいが、あまりにも大きな場所を占めており、その一方イエスと天の事柄は共に、わたしたちの思想や愛情において小さい部分しか占めていない。わたしたちは、日々の生活のすべての義務を良心的に遂行すべきである。しかしまた、わたしたちが他のすべてのことにまさって自分たちの主なるイエス・キリストに対する聖なる愛情を培うことが重要不可欠である。(ビュー・アソド・ハルド 1890年1月7日)

天の事柄について考えることは、この世の義務に対して男女を無能にするのではなく、むしろ、彼らをもっと有能で忠実なものにする。永遠の世界の荘厳な事実は心を魅了し、注意を集中させ、全身をうっとりさせるけれども、霊的な啓発に伴ってクリスチャンに、生活の一般的な義務の遂行を喜ぶことを可能にする落ち着いた天からの勤勉さも与えられる。……

墮落した人間の贖いのために御子という賜物で示された神の愛を瞑想することは、心を感動させ他の何物もできないほどに魂の力を呼び起こす。贖いの働きは、すばらしい働きである。それは、神の宇宙の神秘である。しかしこの比類のない恵みの対照である者が何と無関心なことであろう。……

もし、わたしたちの心が、罪や、サタンが絶えずわたしたちの前に置く暗黒の世界の瞑想によって鈍くさせられなかったならば、わたしたちが全く受ける価値のない恩恵を日々あふれるばかりわたしたちに与えて下さっている方に対して、感謝の熱い尽きせぬ流れがわたしたちの心からあふれ出るであろうに。贖われた者の絶えざる歌は、わたしたちを愛し、主ご自身の血でわたしたちの罪からわたしたちを洗ってくださった方を讃美する。そして、もし、わたしたちが神のみ座の前で、その歌を歌うのであるならば、それを、ここで学ばなければならない。(同上)

天への準備

「しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。だから神は、彼らの神と呼ばれても、それを恥とはされなかった。事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである。」(ヘブル 11:16)

わたしたちは、地上にあっては、巡礼者、異邦人であって、より良い御国、天国を旅しているのだと告白する。もしわたしたちが、本当にここでは、宿りに過ぎず、聖なる人のみが住むことのできる土地に向かって旅をしているのであれば、わたしたちの第一の仕事は、その国をよく知ることでなければならない。そこで市民になるためにわたしたちが持たねばならない礼儀や品性、また必要とされる準備に関して勤勉な問いをわたしたちはすべきである。その国の王であるイエスは、純潔で聖なる方であられる。彼は、ご自分に従う者に「わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである」(ペテロ第一 1:16)とお命じになった。もしもわたしたちが来世でキリストや、罪のない天使と交わるのであれば、わたしたちはこの世で、その社会に対する適合性を得なければならない。

これは、わたしたちの仕事(一番大切な仕事)である。そしてそれ以外のことは、重要性の少ないものである。わたしたちの会話、態度、あらゆる行為は、わたしたちの家庭や隣人に、そして間もなくよりよい御国に移されることをわたしたちが期待するその世界に対する確信を与えるべきものである。……自分の働きによって、日々信仰が高められ、強められる者は、食欲を制することにより、また野心的な望みを抑制し、あらゆる思いと感情を神のご意志に調和させることにより自制心のある者として知られるようになる。……

わたしたちが旅をしていくその土地は、あらゆる意味で、イスラエルの民が目指したカナン之地よりもはるかに魅力的である。……彼らに、その美しい地を見ることを遅らせたものは何であったろうか。……彼らを引き返させたのは、彼ら自身の意図的な不信仰であった。彼らは、神の約束に対して、どのような危険をも犯すつもりはなかった……イスラエルの子らの歴史は、「世の終わりが来る時代に住む」わたしたちに対する警告として書かれている。わたしたちは、かつてのイスラエル人がそうであったように天のカナンの境界線に立っている。もしわたしたちが望むなら、向こう岸を眺めて、美しい地の魅力あるものを見ることが出来る。もし、わたしたちが神のみ約束に信仰を持つならば、この世のために生きているのではなく、わたしたちの最初の仕事は、聖なる御国の準備にあることを会話や、態度で示すのである。(ビュー・アンド・ワールド 1881年11月29日)

6月13日

最後までしっかりと

「もし最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば、わたしたちはキリストにあずかる者となるのである。」(ヘブル 3:14)

わたしたちは信仰を働かせなければならない。わたしは、主に力と健康と、明晰な心を与えられるように祈っており、主がわたしの祈りを聞いてくださることをわたしは信じている。わたしたちは目を覚まして祈っているように訓告を受けている。しかし、このことはわたしたちが孤児のように嘆いたり、愚痴をこぼすことを意味してはいない。実際、クリスチャン生活の絶えざる進歩の戦いは、生涯のものであるが、天の道に進んでいくことは、希望に満ちたものとなるであろう。わたしたちが、努力している対象(永遠の命)にふさわしく、熱心な努力を表すならば、わたしたちは、キリストにあずかる者とされ、主が望まれ、かつ、絶えず、善行をすることによって、栄光と誉と、不死とを求める者に与えようとされているすべての豊かな恵みにあずかるのである。もし、わたしたちの初めの確信を終わりで保つならば、わたしたちは栄光の王を見るであろう。

わたしは、平穏な道を求めない。そしてわたしは天の父に、困難と思われるものをすべて克服することができるように信仰が加えられていることを嘆願する。主は、わたしたちに助け主を与えることができ、与えようとされている。しかし、わたしたちはどのような状況の下にあっても純潔で、クリスチャンの気品、主であり救い主であられるイエス・キリストにある確信を持ち続けるように確固として、また決心するものでなければならない。わたしたちは「愛する者たちよ。それだから、あなたがたはかねてから心がけているように、非道の者の惑わしに誘い込まれて、あなたがた自身の確信を失うことのないように心がけなさい」(ペテロ第二 3:17)と勧められている。

わたしたちの魂の救いに対して永遠の関心がなければならない。そして毎日、わたしたちは目を覚まし、敬虔であるべきである。しかし、わたしたちは主の祝福に対して感謝して快活であるべきである。わたしたちは信仰、生きた信仰を持たねばならない。神は、わたしたちの力であり、すべての力の源である。主の資源は尽きることがない。わたしたちは、日々豊かに受けることができる。……

手が弱くなり、把握力が緩んできた者に対し、わたしは、忠告する。もつとしっかりと標準を握りなさい。信仰は、前進せよという。あなたは気落ちしたり、失望してはならない。絶えず前進する者には、信仰の弱さはない。(手紙 119,1896年)

助け主の臨在

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それ(彼)は真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。」(ヨハネ 14:16, 17)

キリストはまさに天の宮にあるご自分の家へと向かおうとしておられたが、助け主を弟子たちに送り、その助け主は永遠に彼らと共にいて下さることを弟子たちに確約なさった。すべての人はこの助け主に絶対的により頼むべきである。彼は真理の御霊である。しかし、この真理を世は見ることも受けることもできない。……

キリストはご自身が彼らを孤児にはなさらないということを弟子たちが理解するよう望まれた。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところへ帰って来る」(ヨハネ 14:18) と主は言われた。……永遠の命の、尊い、栄光に満ちた確証!たとえ主はおられなくても、主に対する弟子たちの関係は子供たちの両親に対するそれであった。

弟子たちに語られたみ言葉は、彼らの言葉を通してわたしたちに来る。すべての時代、すべての場所にあつて、あらゆる悲しみと悩みにあつて、見通しは暗く、将来は複雑で、助けもなく、一人ぼっちに見えるとき、助け主は彼らのものであったように、わたしたちのものである。こういう時は、信仰の祈りに答えて助け主が送られる時である。

キリストのようなやさしく、真実であられる助け主はいない。主は、わたしたちの弱い感情を知っておられる。主のみ霊は心に語られる。環境は、わたしたちを友から引き離すかもしれない。わたしたちと友の間に広い波立つ大洋があるかもしれない。彼らのまじめな友情は、存在するかもしれないが互いの行為に感謝できるほどに友情を表すことができないかもしれない。しかし、どんな環境も距離も、わたしたちを天の助け主から引き離すことはできない。わたしたちがどこにいようと、どこに行こうとも、常に主はそこにおられ、キリストの立場に立たれる方が、主に代わってなされる。彼は、常にわたしたちの右側におられて、滑らかな優しい言葉で語られ、支持し支え、励まし、勇気づけられる。聖霊の影響は、魂の中のキリストの命である。この御霊は、キリストを受け入れるすべての者の中に、そして、その者を通して働く。この御霊の内住を経験する者は、その実、すなわち愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信仰を表す。(ビュー・アード・ハルト 1897年10月26日)

6月15日

わたしたちの神の信任状

「……聖なる父よ、わたしに賜わった御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」(ヨハネ 17:11)

キリストの弟子たちの間にあるべき一致と、調和は、次の言葉の中に描かれている。「わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」しかし、何と多くの方は、注意をそらし、学ぶ必要のあることを、すでに学んだかのように思っていることであろう。……陣営で中心から一番外れたきわに立つのを選ぶ人々は、内部で行われていることを知ることはできない。彼らは内側の庭にまっすぐ入ってこなければならぬ。なぜなら一つの民として、わたしたちは、信仰と目的によって結ばれていなければならないからである。……これらの一致を通してわたしたちは、キリストの特殊な働きを世に納得させ、我々の聖なる信任状を世に表すことができるのである。

「わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります」(ヨハネ 17:23)。わたしたちは、この言葉の意味を理解することができるだろうか。わたしたちはそれを受け入れることができるだろうか。わたしたちはこの愛をはかることができるだろうか。神が御子を愛されるように、わたしたちを愛されるという思想は、わたしたちを感謝と主への讚美に導く。神が御子を愛されるようにわたしたちを愛することのできる備えがなされてきた。そして、それはわたしたちがキリストと一致し、また互いに一致することを通してである。わたしたちは、各々泉に来て自分のために飲まなければならない。わたしたちのまわりの多くの方は、救いの流れに連れてこられるが、わたしたちはいやしの流れを自分自身で飲まなければ、元気は回復しない。「わたしたちは自分自身のために、神のみ言葉の美しさと光を見て、聖なる祭壇に火を点じなければならない。そうすれば、わたしたちは命の言葉を、光輝く明かりとしてかかげて世に出ていくことができる。……」

「父よ、あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下さい、わたしに賜わった栄光を、彼らに見させて下さい」(ヨハネ 17:24)。何という尊いみ言葉であろう。……キリストは、わたしたちが主の栄光を見ることを望まれる。どこにおいてであろうか?天の王国においてである。主は、わたしたちが、主と一つになることを望まれる。なんと素晴らしい思想であろう。それは、わたしに、主のためのどんな犠牲も払わせる。主は、わたしの愛、わたしの義、わたしの慰め、わたしの喜びの冠である。そして、主は、わたしたちが、主の栄光を見つめることを望まれる。(ビュー・アッド・ヘルド 1890年3月11日)

キリストとそして天父と一つであること

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ 17:21)

これらの言葉は、しばしば繰り返されなければならない。そしてどの魂もこのイエス・キリストの祈りを成就させるように、自分の思想、霊性、日々の行動を訓練しなければならない。主は、天父の不可能な事柄を要求されはしない。キリストの祈りは、ご自分の弟子たちの内に見られるべき完全な一致と、また神とイエス・キリストと彼らの一致のためである。この点で欠ける者は、クリスチャン品性の完全さに到達していない。信徒の心を一致させ、交わりと愛のきずな、またキリストと天父の一致に導く愛という金の鎖は、結合を完全にし、世の中に対して彼らが反対できないキリスト教の力を証することになる。……

その時、利己心は、根こそぎ取り去られ、不忠実は存在しない。争いも、党派もなくなる。キリストに結びつけられる者には、強情さがなくなる。だれも、わがままな言うことを聞かない子供が、引いてくれる手をふりはなして自分で転ぶのを選択するように強情な独立心で行動しない。……

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」(ヨハネ 13:34, 35)。品性の改変において、恵みがどんなことを成し遂げるかの世に対する証の力をサタンは知っている。イエス・キリストを信じると公言する者から、このような光が輝き出ることをサタンは喜ばない。彼は、真理を信じる者の心を結びつけ、父と子の密接な関係にまで達しようとする者の心と心を結びつけるこの金の鎖を断ち切るために、考えられ得るすべての計画を実行しようとしている。……

わたしたちはイエス・キリストを信じている。わたしたちは自分の魂をキリストに結びつける。主は、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして……あなたがたが行って実をむすぶ」ためである(ヨハネ 13:16)「これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである」(ヨハネ 13:17)と言われる。(手紙 110,1893年)

6月17日

わたしの品性に対する神のはかり

「わたしたちは、自己推薦をするような人々と自分を同列においたり比較したりはしない。彼らは仲間同志で互にはかり合ったり、互に比べ合ったりしているが、知恵のないしわざである。」(コリント第二 10:12)

多くの人は自分たちの間で自分を計り、他人の生活と自分の生活を比較する。こうあるべきではない。キリスト以外にだれも手本であってはならない。主はわたしたちの真の模範であり、一人一人が主を見習うにあたって優れた者となるように努力すべきである。……

クリスチャンであることは単にキリストの名を用いることだけではなく、キリストの心を持ち、すべてのことにおいて神の意志に従うことである。クリスチャンであると告白する多くの者がこの偉大な教訓を学ばなければならない。多くの人はキリストのために自我を否定する意味をほとんど知らない。彼は、神に栄光を帰し、主の道を勧める最善の方法を学んでいない。むしろ、自己、自己、それはどうすれば満足させられるかなのである。このような宗教は価値がない。神の日にそのような宗教を所有している者ははかりで量られ、足りないことが明らかにされる。(ビュー・アノド・ヘルト 1883年9月4日)

人が何を言おうとも、どんな意見であろうとも、取るに足りない。問題はわたしの品性に対する神のはかりは何であるかである。……誤った行為をしている他人を支持する者は神の側におらず、敵の側にいる。ネヘミヤは「わたしは神を恐れるので、そのようなことはしなかった」と言った(ネヘミヤ 5:15)。どの魂も、わたしたちの前にある霊的戦いのために自分を武装すべきである。世の計画、世の習慣、世の考え方はわたしたちのためのものではない。わたしたちも「わたしは神を恐れるので、そのようなことはしなかった」と言うべきである。利己心、不正直、ずるさが心に侵入しようとしている。それらを入らせないようにしよう。

ネヘミヤは神の栄光にのみ目を留めていた。……彼は自分の取った堅固な行為によって、勇敢なクリスチャンである証拠を立てた。彼らの良心は清く精錬され神への従順によって磨かれ、高貴にされていた。彼はクリスチャンの原則から離れるのを拒んだ。

キリストの品性を表すために、わたしたちがクリスチャンと呼ばれるのに(神の名によって呼ばれる神の召しに)ふさわしく歩むという責任がキリストを信じるすべての者の上に置かれている。十字架はそれを尊ぶすべてのクリスチャンを誉める者にする。(手紙 406, 1906年)

謙遜に伴う靈的清らかさ

「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。」(ペテロ第一 5:5)

なんと多くの人が、自分では尊厳と呼ぶが、実は自負心にすぎないものにかじりついていることであろう。彼らは、自分を高めて下さるキリストのために心を謙遜にして待とうとはせず自己を高めようとする。……

真の聖なることと謙遜とは分離できないものである。魂が神に近くなればなるほど、より完全に謙遜になり服従するようになる。ヨブがつむじ風の中から主の声を聞いたとき彼は「わたしは自ら恨み、ちり灰の中で悔います」(ヨブ 42:6)と叫んだ。イザヤは主の栄光を見、ケルビムが「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主」と叫ぶのを聞いたとき、「災いなるかな、わたしは滅びるばかりだ」(イザヤ 6:3, 5)と叫んだ。聖なる使者の訪れを受けた時ダニエルは「わが顔の輝きは恐ろしく変わって」(ダニエル 10:8)と言っている。パウロは第三の天に上げられ人間が聞くことのできないものを聞いたとき聖徒たちの内で最も小さい者(エペソ 3:8)として自分を語っている。天使の前で死んだ者のようになったのは、イエスの胸に寄りかかり、主の栄光を見た愛されたヨハネであった。もっと近くもっと絶えず救い主を見つめれば、わたしたちは自分自身のうちに推奨するものを認めなくなっていく。(レビュー・アンド・ヘルド 1881年12月20日)

キリストの無比の愛の輝きを捕らえる者は、他のすべてのものを損と思ひ、主を万人のかしら、愛すべき唯一のお方だと思う。セラピムとケルビムがキリストを見るとき、彼らは翼で顔を覆う。彼ら自身の完全と美でさえ、栄光の主の前には誇れない。自己を高めるといことは人にとって何とふさわしくないことであろう。彼らには謙遜という衣を着させ、優越のための戦いを中止させ、心は柔和と謙遜であることが何を意味するのかを学ばせなさい。神の栄光と無限の愛を瞑想する者は自分を謙遜の目で見ると、神の品性を見つめることによって、主の聖なるみ姿に変えられる。(同上 1896年2月25日)

6月19日

なぜ高められるか

「何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。」(ピリピ 2:3, 4)

誇りや激情ほど教会の力を弱めるものはない。……キリストは愛と謙遜の模範を与えられ、主がわたしたちを愛されたように互いに愛し合うことを主に従う者に命じられた。わたしたちは心を低くして自分よりも他人を優れた者として尊敬思うべきである。わたしたちは自分の品性の欠点には厳しく、自分の過ちや過失をすぐにはっきりと認め、他人の失敗には自分に対するよりも寛大でなければならない。他人の事柄には特別な関心を示さねばならない。この関心は彼らのものをむやみに欲しがったりあら探しをしたり、間違った光で彼らを批判したり、推薦したりするのではなくわたしたちの兄弟やわたしたちに関わりのあるすべての人に対し、すべてのことに厳密な正義を行うということである。少しの収穫を得ようとして自分の利己的関心から計画したり優越性を示したり競争のために働く精神は神に対する罪である。キリストの精神は主に従う者が自分たちの成功や利益に対してだけではなく、兄弟たちの成功や利益に関しても同じように関心を払うように導く。……

イエスのみが高められるべきである。個人の能力や成功がどのようなものであれ、自分でこれらの力を現したのではない。それらは主の栄光のために賢く使われるため、神によってわたしたちに与えられた聖なる義務である。すべては神から借りている資本である。ではわたしたちはなぜ高められるべきであろうか。なぜわたしたちは欠点の多い自己に対して注意を払うべきなのであろうか。わたしたちが才能や知恵を持っているのは神に栄光を帰すために知恵の源から受けたものである。……

知性の誇りはキリストと共に神の内に隠されている心には存在し得ない。……謙遜な者となり、イエスをあがめよう。決して、ほんの少しでも自己を高めないようにしよう。……もし、わたしたちの全生活の動機がキリストに仕え、尊敬し、世の人々を祝福するものであれば、義務の最も厳しい道も輝かしい道—(主に贖われた人々が歩くために備えられた道)になるのである。(ビュー・アノド・ヘルト 1900年9月4日)

自分のことに気をつけなさい

「自分のことと教のことに気をつけ、それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる。」(テモテ第一 4:16)

ある人は他人のすることに何にでも不満を言うことにある程度の価値があると考えている。……ユダヤ人がそうであった。キリストはユダのむやみに欲しがる、金銭欲の深い性質にもかかわらず彼が教会の一員であることを許された。彼は神の栄光のために役立つ面を持っていた。しかし彼は自分の品性の欠点に勝利しようとしなかった。キリストは長く、忍耐を持って彼のために忍ばれた。……主は彼を正しくするためにほかの弟子に与えたのと同じ教訓を彼の前に置かれた。彼はそれらを正しく用いるべきであったが、天との正しい関係を維持しなかった。キリストは彼の本当の状態を知っておられ彼は機会を与えられた。主はヨハネを教会に連れられた。それはヨハネが人間の意志の弱さを持っていないからと言うのではなく主の偉大なる愛の心に彼を結びつけようとなさったためであった。ヨハネが彼の品性の欠点に勝利した時に、教会に対し光として立つことになるのである。ペテロは自分の誤りを正した時、神の約束を受け継いだ。主は復活のあとで、数日前には主を拒んだペテロであったが、彼に「わたしの羊を飼いなさい」「わたしの小羊を養いなさい」(ヨハネ 21:16, 15)と言われた。今、主はペテロを信用することがおできになった。彼は神の事柄における経験を得たからである。……

ヨハネはいつもイエスのご生涯を手本とすることを学んでいた。彼はキリストの学校で学んでいた。……教訓に教訓を加えて、キリストは弟子たちに父のみ心を知り、世に光として輝くように教えられた。ヨハネとペテロは神が信用することができた人々であった。しかしユダはそうではなかった。ヨハネとペテロは教訓を受け入れ注意を払い、勝利を得た。しかし、ユダはすべての試みに失敗した。彼は自分の欠点を見たが、それを正す代わりに周囲の者の欠点を拾い上げて自分の気持ちを晴らした。……パウロはテモテに「気をつけなさい」と言った。それは自分のためにまず神を求めることである。各々が自分自身に注意を向け、根気よく自分の魂を守り、わたしたちが批判しようとする者の前にキリストのような模範を置くようにしよう。(ビュー・アンド・ワールド 1885年8月15日)

6月21日

品性にキリストをあらわす

「あなた自身を良いわざの模範として示し、人を教える場合には、清廉と謹厳をもってし、非難のない健全な言葉を用いなさい。そうすれば、反対者も、わたしたちについてなんの悪口も言えなくなり、自ら恥じるであろう。」(テトス 2:7, 8)

だれでもその人がみ言葉に親しむ聖徒である間は、各段階において謙遜であるので、極端に走るのを恐れる必要はない。信仰によってキリストがその人の中に住まわれなければならない。彼らの模範である主は、冷静であられた。主は謙遜に歩まれた。主には真の威厳があった。主は忍耐強い方であった。もしわたしたちがこれらの特質を個人的に獲得するなら……極端主義者などはいないであろう。

キリストは人々と真理のための彼の審判の時に決して失敗されなかった。主は決して外見に欺かれることはなかった。主は疑いなく適切なこと以外は決して質問を出されなかった。また適切な正しい答え以外は、決してお答えにならなかった。あら捜しをし口やかましく抜け目ないずる祭司たちの声を主は沈黙させたが、それはうわべを貫き、心に届き、彼らの良心に光を差し込むことによってであった。それは彼らをいらだたせた。しかし彼らは悔い改めようとはしなかった。キリストは決して極端に走られたり、自制心を失うことなく、いかなる興奮の中にあっても心の均衡を失なわれることはなかった。主は語る時にも沈黙する時にもその良い判断と識別をお忘れにならなかった。そのように義の太陽であられる方の尊い黄金の光を見たいと願うすべての人々が、キリストの模範に従うなら、極端主義者は生まれまいであろう。……

穏やかで冷静でいよう。これがキリストのご品性であったゆえにそれらのものを育み、たゆまず持ち続けよう。……わたしたちはすべての真理の著者であられる方の内に騒がしい信仰の主張も聞かなければ、身体を熱狂的に動かしたり、ねじったりする動きを見ることはない。

主の内に肉体の形で神性のすべてがことごとく住んでいたことを覚えよう。もし信仰によってわたしたちの心の中にキリストが住んでおられるならば、そのご生涯の態度を見つめることによって、わたしたちはイエスようになること一清く穏やかで汚れのないこと一を願うであろう。わたしたちは、わたしたちの品性の内にキリストをあらわすであろう。わたしたちは光を受けいれ、吸収するだけでなく、その光を他に伝えるようになるであろう。わたしたちは、イエスがわたしたちにとってどのような方であるべきか、と言うもつとはっきりと澄んだ考えを持つようになる。イエス・キリストのご生涯に見られた調和、魅力、慈悲が、わたしたちの生活からも輝きだしてくるであろう。(原稿 24, 1890 年)

麦の中の毒麦

「収穫まで、両方とも育つままにしておけ。収穫の時になったら、刈る者に、ま
 ず毒麦を集めて束にして焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう。」(マ
 タイ 13:30)

この世においてわたしたちは絶望し途方に暮れてしまうことがあるであろう。(サ
 タンはわたしたちがそうなることを願っているが) もしわたしたちがそういう途方
 に暮れるような事柄を眺めつづけそのことばかり考え、また話したりし続けている
 ならば、わたしたちは失望に陥ってしまう。……わたしたちは自分の心の中に
 本当のものではない偽の世界を造ったり、またはサタンが来てもはや悪いことを
 そそのかしたりしない理想の教会を思い描いたりする。しかし、完全なものはわ
 たしたちの想像の中にも存在するのである。この世界は墮落した世界であり、
 教会は毒麦と良い麦と一緒に育っている畑によって表現されている場所である。
 両者は収穫の時まで共に成長していくのである。人間の知恵によって毒麦を根絶
 しようとするのはわたしたちの役目ではない。サタンの示唆によって良い麦を毒麦
 の嫌疑で引き抜いたりしないためである。心が謙遜で柔和な人には天来の知恵
 が与えられている。この知恵はその人を破滅へ導かないで、神の民として成長さ
 せるのである。……

だれも、クリスチャンだと公言する人の不完全さを計ろうとして、自分の短い
 人生の黄金の瞬間を失ったり、誤ったりする必要はない。わたしたちのうちのだ
 れもこのための時間はない。もしクリスチャンが発達させるべきである品性の様
 子がどのようなものであるかをわたしたちが知り、この品性と一致しないものを他
 の人のうちに見るなら、矛盾した行動をわたしたちにさせようとする敵に断固とし
 て抵抗すると決心しよう。そして次のように言おう。「わたしは、わたしのゆえにキ
 リストに恥をかかせない。不完全なところがなく、利己的でもなく、しみがなく、
 悪の汚れのない方、またご自分を喜ばせず、ご自分に名誉を帰すために生きられ
 たのではなく、神に栄光を帰し墮落した人類を救う方であるキリストのご品性を、
 もっと熱心にわたしは学ぶ。わたしは矛盾したクリスチャンの不完全な品性を手
 本としたりはしない。彼らが犯している間違いが、わたしを同じような者になるよ
 うに導かせはしない。わたしは、自分になりたいと願う尊い救い主により頼み、『キ
 リスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互いに
 生かしなさい』(ピリピ 2:5)と言われている神のみ言葉の教えに従う。」(レブ
 ・アト・ハルト 1893年8月8日)

6月23日

わたしたちが許されたように

「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもゆるしてください。」(マタイ 6:12)

イエスに従う者になりたいと願う者にとってもっとも困難なことは、キリストがわたしたちが許されたように許すことである。真の許しの精神はほとんど実行されていない。そしてキリストのご要求に非常にたくさんの解釈がなされたためにその力と美は見失われている。わたしたちは神の大いなる恵みと慈悲について不確かな考えしか持っていない。主は思いやりと許しに満ちておられ、わたしたちが真に悔い改め、自分の罪を告白する時に、すぐさまお許しになる。……

ペテロは試みを受けた時に、大きな罪を犯した。彼が愛し、仕えていた主を拒むことによって、彼は臆病な使徒となった。しかし彼の主は彼をお捨てにならず、おしげもなくお許しになった。……その後彼は自分の弱さと失敗を覚え、彼の兄弟たちの失敗や過ちに忍耐強くなった。彼に向けられたキリストの忍耐深い愛を覚えることによってまた彼に良い働きの実を生じさせる他の機会が与えられることによって彼は過ちを犯した者を一層慰めることができるようになった。……

主に従う人々に対してわたしたちが主から受けたと同じような態度を示すというのがわたしたちに対する主のご要求である。わたしたちは彼らがあらゆる点においてわたしたちの期待に添わないとしても親切であるように、また忍耐深くあるようにしよう。……十戒の後半の六条は、他人に対する人間の義務を明確に述べている。キリストは「あなたの隣人を許せ」とおっしゃるだけではなく「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛」せよと仰せになった。……

イエスの愛はわたしたちの生活にあらわされる必要がある。この愛はわたしたちの心と品性を支配し、柔和に対する影響力がある。それはたとえ兄弟たちがわたしたちを傷つけるようなことをしたとしても許すようわたしたちに呼び掛けている。聖なる愛はわたしたちの心からお互いに対する柔和な言葉や親切な行為となって溢れ出なければならない。これらの良い働きの実は品性というぶどうの木に豊かな房となって実るのである。……

あなたの救い主として、あわれみ深く情け深くあなたの弱い感情に触れて下さったキリストにあって喜ぶと、あなたの日ごとの生活に愛と喜びがあらわされるようになる。もしあなたが人類を贖うために死なれた主を愛するならば、あなたは主がそのために死なれた人々を愛するようになるであろう。(ビュー・アソド・ハルト 1886年11月16日)

あなたの問題をどのように解決するか

「もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。」(マタイ 18:15)

わたしたちは、神とわたしたち、また他の人とわたしたちの関係について注意深く考えるべきである。わたしたちは神に対して罪を犯し続けているが、しかし主のあわれみはそれでもわたしたちに下っているのである。愛のうちに主は、わたしたちの強情、わたしたちの怠慢、忘恩、不服従を耐えておられる。主はわたしたちに対して決して性急であられない。わたしたちは主の恵みを軽蔑し、主の御霊を悲しませ、人々と天使の前にみ名を汚している。しかし、それでもなお主のあわれみは人を見捨てることがない。わたしたちに対する神の寛容を考えて、わたしたちは互いに長く忍ぶべきである。わたしたちは自分の欠点が神の御目にはいかに大きいものであるかを覚える時に、わたしたちの兄弟の失敗や欠点をどんなに忍耐強く耐えるべきであろうか。もしわたしたちが他の人に対して苛酷……であるならば、天父に対して「わたしたちに負債のある者を許しましたように、わたしたちの負債をお許してください」(マタイ 6:12) とどうして祈ることができようか。……

もしあなたが、あなたの兄弟に傷つけられたと考えられる時には、その兄弟のところへ愛と親切な心をもって行きなさい。そうすればあなたは理解と一致に到達するであろう。……もしあなたが、問題を解決することに成功したいなら、あなたはあなたの友人を彼の欠陥を暴露することなく得たことになる。そしてあなたの間の解決は他の人の注視から多くの罪を隠すのである。……

愛情をいつも生き生きと保ち、またわたしたちの心が他の人に存在する善に気づくことができるような状態に保つために、特別な注意を払わなければならない。もしこの点をおろそかにするなら、サタンはわたしたちの心に嫉妬を植え付ける。彼はわたしたちの目に彼の眼鏡をかけさせ、兄弟たちの行為をやがめられた光のうちに見るようにさせる。わたしたちは、自分たちの兄弟たちを批判的に見る代わりに、自分の目を自分自身の内側に向けて、自分の品性のうちにある嫌な特徴をいつでも発見できるようにしよう。わたしたちが自分自身の間違いや失敗に気づくとき、他の人々の間違いは取るに足りない問題になってくる。

サタンは兄弟たちの告発者である。彼はどんな小さな問題であれ、あらゆる失敗を見張っている。非難すべき点を何か見出そうとしているのである。サタンの側から離れようではないか。(レビュー・アンド・ヘルド 1891年2月24日)

6月25日

良いことを探しなさい

「最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。」(ピリピ 4:8)

わたしたちは人類と言う大きな織物の一部分をなしている。わたしたちは自分の住む環境に似たものに変えられていく。であるからわたしたちの心を真実で愛すべきこと、また誉あることに開くということは、いかに重要なことであろう。心に義の太陽からの光を差し込ませよう。苦い根となるものを愛してはならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1893年8月15日)

キリストは知恵において無限な方であられ、ユダの品性の不完全さを知っておられたが、しかもなお彼を受け入れるのが最善のことであるとお考えになった。ヨハネは完全ではなかった。ペテロは主を拒んだ。しかしながら、最初のキリスト教の教会が組織されたのはこのような人々によってであった。何が完全なクリスチャンの品性を構成するかを彼らのご自分から学ぶであろうと、イエスは彼らをお受けになったのである。すべてのクリスチャンのしなければならぬことは、キリストの品性を学ぶことである。……

ユダだけは、この神の啓蒙に答えようとしなかった。……彼は自分の心を真理の感化に逆らわせた。そして彼が他の人を批判し、非難している間、自分の魂はなおざりにし、品性の本能的な悪の傾向を大事にし、強め、ついには自分の主を銀三十枚で売るまでにかたくなにしてしまったのである。

自分の魂をイエスを見上げるように励まそうではないか!……

神の働きを担う人々に不完全さを見ることは珍しいことではない。……もしどれほど多くの魂が、自分たちの財力と知力のタラントを持って、神に栄光を帰し、尊ぶかを公平に見るならば、神をさらに喜ばせるのではないだろうか。あわれな堕落していた罪人が変えられることにみられるすばらしい神の奇跡を行う力を考えることはより良いことではないだろうか。……もっとも好ましくないことを……わたしたちが途方にくれたり、失望したりすることの原因とすべきではない。人性の弱さをわたしたちに見せてくれる原因となっているすべてのことは、どのような場合にも人間に信頼を置いたり、肉体をわたしたちの武器としたりしないで、わたしたちが主を見上げる助けとなるようにとの主のご目的のうちにあるのである。(同上)

羊とおおかみ

「しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、あなたをのろう者を祝福し、あなたを憎む者に善を行い、あなたに意地の悪いうちをし、迫害する者のために祈れ。」(マタイ 5:44 英文訳)

悪が充満し、多くの人の愛が次第に冷えてくるこの終わりの時代に、神は、ご自分のみ名を称え、不義に対する譴責者として立つ民をお持ちになるであろう。この世が戒めをむなしのものにしようとする時に、彼らは神の律法に対し、真実な「特別の民」となるべきである。そして、神の悔い改めをうながす力が主のしもべを通して働く時に、暗闇の軍勢は激しい敵意を示し、またはっきりと敵対する。
.....

サタンは真理に敵意を抱いており、あらゆる戦法を使ってその擁護者に戦いを挑んで来る。(レビエ・アソド・ハラルド 1888年5月8日)

わたしたちは、激しい言葉や軽蔑の言葉をかけられたり、不親切な目で見られた時に、神のうちにキリストと共に隠れるような生活をしなければならない。このような人々にわたしたちの感情をかき乱されるままにしてはならない。むしろ、彼らはわたしたちが知りたいと願っている尊い救い主について何も知らないのであるから、彼らに深い同情を感じなければならない。わたしたちは、彼らがイエスキリストに最も激しく逆らった敵に仕える者であり、全天が神の息子、娘たちのために門を開いている時にも彼らにはそのような特権がないことを覚えなければならない。あなたがたはあなたがたが全地のおもてに住む最も幸福な民であることを感じるべきである。キリストを表わす者として、あなたがたは狼の真ん中にいる羊のような者であるにもかかわらず、あなたがたはどのような環境の下でもあなたを助けることのできる方がそばにおられ、あなたがイエスにぴったりとつながっていればこのような狼に喰い尽くされることはないのである。すべての会話や行動にイエスをあらわすということにあなたはいかに注意すべきであろうか!あなたが朝起き出した時、また街へ出かけ帰ってきたとき、イエスがあなたを愛しておられ、あなたのそばにおられることを、またそのようなあなたの救い主を悲しませる思いを大事にすべきではないということを感じるべきである。.....

悪天使はいたる所で、あなたがたに彼らの暗黒を強制しようとするかもしれない。しかし、神のみ心は、彼らの力よりもっと偉大である。そしてもしあなたが、言葉にも行状にも、またどのような方法でも、キリストを恥としないならば、生きている限り神の平安と豊かな祝福が毎日あなたの心にあるのである。(同上8月10日)

6月27日

心を閉じるべき時

「兄弟たちよ。互に悪口を言い合ってはならない。兄弟の悪口を言ったり、自分の兄弟をさばいたりする者は、律法をそしり、律法をさばくやからである。もしあなたが律法をさばくなら、律法の実行者ではなくて、その審判者なのである。」(ヤコブ4:11)

もしサタンが信仰を告白する者を兄弟たちの非難者として行動するようにさせることができるならば、彼は非常に喜ぶであろう。なぜなら、兄弟を告発する者はユダがキリストを敵に売った時にそうであったように、知らないでしていたとしてもまさにサタンに仕えているからである。……

うわさ話は、しばしば兄弟たちの間の一致を破壊するものとなる。飛び交うスキャンダルを捕らえようと耳や心を開いて見守っている人がいるものである。彼らは自分たちにとっては些細なことと思われる小さな出来事を拾い集める。しかしそれは人が言葉のための犯罪者になるまで繰り返されたり拡張されたりする。彼らのモットーは「聞かせなさい。わたしたちも聞かせよう」ではないかとさえ思われる。

これらの人のうわさを言いふらす人は、彼らの行為が神にとっていかに不快であるか知らずに、悪魔の働きを驚くべき忠実さで続けているのである。もし彼らがこの汚れた働きに使っている精力や熱心さの半分でも彼ら自身の心を探るために使うならば、彼らの魂を汚れから清めるためになさねばならないことが多くあることに気が付くであろう。そして彼らは兄弟を批判する傾向や時間がなくなり、この誘惑の力に屈することがなくなるのである。

「彼が言った」とか「わたしは聞いた」とかいう言葉に対して、心の戸を閉ざすべきである。わたしたちは、心の中に嫉妬や、悪い憶測を入れることを許す代わりに、なぜ兄弟たちのところへ行き、わたしたちが聞いた彼らの品性や感化に好ましくない事柄を率直に、しかも親切に、持ち出すことができないのだろうか。そうして彼らのために、また彼らと共に祈ることができないのだろうか?……

わたしたちは勤勉にキリストの福音の清い原則、宗教を、誇りのためではなく、愛と、柔和と、心の謙遜のために培うべきである。その時わたしたちは、兄弟たちを愛し、わたしたち自身よりも彼らを尊敬することができるようになる。わたしたちの心は品性の暗黒の側には住まない。わたしたちはスキャンダルやうわさ話を楽しまなくなる。むしろわたしたちは「すべてはまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめ」(ピリピ4:8) になるのである。(ビュー・アンド・ハルド 1884年6月3日)

天の祝福を伴った香り

「あなたがたのうちで、知恵があり物わがりのよい人は、だれであるか。その人は、知恵にかなう柔和な行いをしていることを、よい生活によって示すがよい。しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや党派心をいだいているのなら、誇り高ぶってはならない。また、真理にそむいて偽ってはならない。」(ヤコブ 3:13, 14)

何が真理に対して偽っているのだろうか? 精神や、言葉や態度がキリストではなくサタンをあらわしているのに、なお、真理を信じていると主張していることである。悪いことを思い、短気を起こして許さないことは、真理に対して偽ることである。しかし、愛、忍耐、寛容などは真理の原則に従うものである。真理は常に清く、常に親切で少しの利己主義も混じらない天の芳香を呼吸することである。

……

不親切になったり、他の人を批判したり、無情な表現をしたり、ゆるすことなく人をさばいたり、悪い思想を楽しんだりすることは、天からの知恵によってもたらされたものではない。……クリスチャンの言葉は柔和で慎重でなければならない。彼の清い信仰は、彼にキリストを世にあらわすように求める。キリストの内にとどまるすべての人は、主のご生涯の特徴であった親切とゆるしの心を表わすであろう。彼らの働きは敬虔と公正と純潔な働きとなるであろう。彼らは知恵から出た柔和を持ち、イエスの恵みの賜物を実行するであろう。(ビュー・アソド・バウド 1895年3月12日)

「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。……いつも感謝していなさい。キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい」(コロサイ 3:15, 16)。キリストはこのように実践された。主はしばしば誘惑によって攻撃をお受けになった。しかし、屈したり、怒ったりするかわりに、神への讚美をお歌いになった。主は霊的な歌をもって、サタンが争いを起こすために用いた人々の雄弁な言葉をお止めになった。……

神を愛する人々が誘惑されるとき、非難したり、あら捜ししたりする言葉を語るよりも、むしろ彼らの創造主への讚美を歌うようにさせなさい。主はこのように平和をつくらうとする人々を祝福されるであろう。神に信頼しなさい。あなたの無防備な言葉によって敵を優勢にしないように注意しなさい。イエスを常に仰ぎ見なさい。主はあなたの力である。……

思いやり深く、あわれみ深く、同情あるものとなりなさい。そうすればあなたを取り巻く雰囲気は天の祝福の香りとなるであろう。(ユース・インストラクター 1901年9月12日)

6月29日

最大の奉仕

「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」(エペソ 4:32)

神がしてくださっていることに対してわたしたちがお返しできる最大の奉仕は、他の人々の道に正しい光を反射することであり、忍耐深く、親切で、原則には岩のように固く立ち、神を恐れる者となることである。これがわたしたちを地の塩、世の光とするのである。わたしたちは、わたしたちに関係のある人々の中に完全さを見出せないで、しばしば失望させられる。そして彼らもわたしたちのうちに完全さを見ないのである。わたしたちの側で必死の努力をすることによってのみ、わたしたちは利己的でなくなり、謙遜で、子供のようになり、素直な、柔和な、心のへりくだった、わたしたちの聖なる主のようになる者になるのである。わたしたちは自分の心の精神を、霊的なそして天の事柄によって教育の高い目標に引き上げなければならない。

この世界は天国ではなく、清く聖なるパラダイスに主の民がふさわしくなるよう準備する神の働き場である。わたしたちの一人一人が人類という大きな織物の一部であることを感じる時に、彼はその織物の中にいる他の人々に、彼自身よりもっと欠点のないものであるよう期待してはならない。失敗が喜んで正されるならば非常に価値のある経験を受けることができ、彼らの失敗は転じて勝利となる。あなたがたはあなたがた自身の失敗の多くが明るみに出されていないということを考えるべきであり、他人の失敗や不完全さ、あなたにとっても他の人にとっても最悪の状態で見れることのないように注意しなさい。完全な人はいない。そして他の人に対する正しくない批評にふけることは、賢明でもなくまたキリストの精神にかなったものでもない。……

もし主がおいでになり、報いをなさる時に、人の子の前に立ちたいならば、わたしたちには自分自身の魂をしみや汚れから清めるために自分でなすべき深刻かつ厳粛な働きがある。わたしたちは改革者であると同様に教育者でなければならない。わたしたちの理想に従わず、過ちを犯すすべての人をつきはなすことは、わたしたちのためにキリストがなさったようにしていないのである。わたしたちはみんな誤りを犯しやすい者であり、わたしたちに関係のある人々に対して、わたしたちはあわれみや寛容、親切な思いやり、同情に満ちた愛が必要である。わたしたちはすべて神の愛と信頼に値しない者である。(手紙 30,1888 年)

互いに築き上げる

「わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さをにやぶべきであって、自分だけを喜ばせることをしてはならない。」(ローマ 15:1)

神はわたしたちが審判者の位置について、互いにさばくよう望んではおられない。……わたしたちが他人の過失を目にした時、神の御目にはわたしたちが責めている兄弟よりも、もっと重大な過失をわたしたちが犯していることを覚えよう。彼の欠陥を言いふらす代わりに、彼を祝福し、彼が過失に打ち勝てるよう神に助けを求めなさい。キリストはこの精神と行いをお認めになり、あなたが信仰の弱い人々に、力と助けを与える知恵の言葉を語るができるように道を開いてくださる。

最も清い信仰のうちにお互いを築き上げる働きは、祝福された働きである。しかし、壊してしまう働きは、苦痛と悲しみに満ちた働きである。キリストは、ご自分が苦しんでいる子供たちと同一であられることを「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」と仰せになることによって示された(マタイ 25:40)。……すべての人は自身の苦しみや失望を心の中に持っているので、わたしたちは周囲のこれらの人々にキリストの愛を表すことによって、お互いの重荷を軽くするように努めるべきである。もしわたしたちの会話が天や、天の事柄についてであるならば、悪い会話も直ちにわたしたちにとって魅力のないものとなるであろう。……

他の人々の欠陥を見出す代わりに、わたしたちは自分自身に批判的になろう。わたしたち一人一人の質問は、「わたしは神のみ前に正しいだろうか」であるべきである。このようにすることは天にいますわたしたちの父に栄光を帰さないだろうか。もしあなたが悪い精神を愛してきたならば、それを魂からしめ出すようにしよう。あなたの心から性質を汚すすべてのものを根絶するのはあなたの義務である。その有毒な感化によって、他の人々を汚さないように、あらゆる敵意という根を根こそぎにするべきである。あなたの心の土壌の中に一本の有毒な植物も残すことを許してはならない。今すぐこの有毒な木を抜いて、その木のかわりに愛の木を植えなさい。イエスを心の内に住ませよう。キリストはわたしたちの模範である。主は良いことをなすために出て行かれた。主は他の人々を祝福するために生活された。愛は主のすべての行為を美しくし、気高くした。そしてわたしたちは主のみ足の跡に従うよう命じられているのである。(ビュー・アソ'・ヘラルド 1888年6月5日)

研究 14

神の憐れみの最後の招き



「もうひとつの声」

二つのはっきり区別された招きが教会になされた

最後のメッセージの中で、二つの区別された招きがなされていることが記されています。

「黙示録 18 章は、教会が、黙示録 14:6-12 の三重のメッセージを拒否した結果、第二天使のメッセージが預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。これは、世界に発せられる最後のメッセージである。そしてそれは、その働きを成し遂げる。『真理を信じないで不義を喜んでいた』人々は、偽りを信じ、迷わず力に陥るままにされる（テサロニケ第二 2:12）。そのとき真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな、『わたしの民よ。彼女から離れ去』れという招きの声に耳を傾けるのである（黙示録 18:4)。」（各時代の大争闘下巻 93）

「イエスが公生涯に入られたとき、神聖を汚す冒瀆から宮を清められた。このお方が公生涯の終りになされたみわざの中に、第二回目の宮の清めがあった。同様に、世の警告のための最後の働きにおいて、二つの個別な招きが諸教会になされる。第二天使のメッセージは、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者』である（黙示録 14:8）。そして第三天使の大いなる叫びが、天から次のように言うのが聞かれる。『わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。彼女の罪は積り積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる』（黙示録 18:4, 5)。」（ビュー・アソッド・パレード 1892 年 12 月 6 日）

このように、最後の働きの開始および終了の時に、それぞれ個別の招きがな

され、この二つのメッセージから、最後のメッセージがなっていることがわかります。必ず、このお方は宣言されてから、すなわちご自分に戻る機会を与えてから、働きを進めてくださるのです。

では、このメッセージは、いつ、どのように伝えられるのでしょうか。

もう一人の御使は第三天使と声を合わせる

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。…、『わたしの民よ。彼女から離れ去って、』(黙示録 18:1, 4)。

「この天使の働きは、第三天使の最後のの大いなる働きにおいてそのメッセージが大いなる叫びとなってもりあがるちょうどその時に始められる」(初代文集 448)。

黙示録 14 章にある最後のメッセージは、個別に伝えられるのではなく、共に伝えられ、黙示録 18 章のもう一人の御使の働きは、第三天使の働きが大いなる叫びとなるその時に始まるとあります。では、それがいつ始まるのでしょうか。

「わたしは疑いなく、神がジョーンズ兄弟とワゴナー兄弟に正しい時に貴重な真理を与えて下さったことを信じる」(E・G・初作 1888 年原稿 566)。

「テストの時がわたしたちに迫っている。なぜなら、罪を許す贖い主、キリストの義の啓示のうちに、第三天使の大いなる叫びはすでに始まっているからである。これは全地をその栄光で満たす御使の光の始まりである」(セクレット・メッセージ 1 巻 363)。

この働きは、ホワイト夫人の時代に「すでに始まった」と述べられています。それは「ちょうどその時」、「正しい時」に、すなわち 1888 年の「信仰による義認」のメッセージが語られた時でした。これは「あなたの光」「あなたの義」があなたの前に行くというイザヤ 58 章の預言とも一致します(イザヤ 58 章)。

「第三天使のメッセージが宣布されている間に、『もう一人の御使』が『大いなる権威を持って、天から降りて来る』、そして地は『彼の栄光によって明るくされ』るのである。主の御霊が非常に恵み深く献身した人間という器を祝福するので、男子どもたちが唇を開いて讚美や感謝をささげ、神の知識と、またこのお方の比類なき栄光が、海の水のように、地を満たすのである」(SDA パイブル・コメント [E・G・初作・コメント] 7 巻 983)。

主の言葉はとこしえですから、必ず成就します。しかし、人が思った通りではありません。

キリストが初臨されたとき、当時の神の民は、旧約の最後の預言に基づいてメシヤの来臨の前に来るべき「エリヤ」を待っていました。しかし、イエスは「あなたがたに言うておく。エリヤはすでにきたのだ」と言われました。この歴史は繰り返されていないでしょうか。エリヤが来たことを認めなかった人々に対して、

イエスが続けて次のように警告なさいました、「しかし人々は彼を認めず、自分かつてに彼をあしらった。人の子もまた、そのように彼らから苦しみを受けることになるう」(マタイ 17:12)。

「最後の大争闘がわたしたちの目前にあるが、助けは神を愛し、その律法に従うすべての者にもたらされる。そして地、すなわち全地は神の栄光によって明るくされるのである。『もう一人の御使』が、天から降りてこなければならない。この御使は、大いなる叫びをなすことを表している。それは力強く、大声で叫ぶ準備をしている者の中から聞こえるのである。……(黙示録 18:1, 2)」(ヘレグッド・メッセジ 3 巻 412)。

「第三天使のメッセージは地に行きわたり、民を目覚めさせ、彼らの注意を神の戒めとイエスの信仰に向けさせなければならない。もう一人の御使はその声を第三天使と結合させる。そして地はその栄光によって明るくされるのである。

光は増し、地のあらゆる国民へと輝き出る。それは燃える光のように輝き出る。それには大きな力が伴い、その黄金の光線が、全地のおもてにいるすべての国語、すべての民族、すべての国民へ降り注ぐのである。あなたにお尋ねしよう。あなたはこの働きのために準備しているであろうか。あなたは永遠のために築いているであろうか。あなたはこの御使が、世に伝えるためにこのメッセージを持っている民を表していることを覚えていなければならない。あなたはこの民のうちにいるであろうか。あなたはわたしたちが携わっているこの働きが本当に第三天使のメッセージだと信じているであろうか。もしそうであれば、あなたは自分がなすべき大きな働きを持っており、それにとりかからなければならないことを理解するであろう。わたしたちは真理への厳密な従順によって自らを聖化し、神とそのみ働きに対して正しい関係のうちに身をおかなければならない」(ビュー・アノド・ハルト 1885 年 8 月 18 日)。

「そこで、この天使一天から下って来、栄光をもって地を照らし、力強い声でバビロンの罪を知らせる天使一によって象徴されているところの運動が起こる。この天使のメッセージと関連して、「わたしの民よ。彼女から離れ去れ」という呼びかけが聞かれる。これらの布告は、第三天使のメッセージとともに、地上の住民に与えられる最後の警告なのである」(各時代の争闘下巻 372)。

では、最後のメッセージの内容を見てみましょう。

夜中の叫び - マタイ 25:6 & 第三天使の大いなる叫び - 黙示録 18:2, 4

「夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と叫ぶ声があった」(マタイ 25:6)。

「彼は力強い声で叫んで言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。…」(黙

示録 18:2)。

「わたしはまた、もうひとつの音が天から出るのを聞いた、『わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。』」(黙示録 18:4)。

「1844年に第二天使のメッセージに夜中の叫びが合流したように、このメッセージは、第三天使のメッセージに追加されて一緒になったものようであった」(初代文集 449)。

第二天使のメッセージの時に、「出なさい」という夜中の叫びが追加されたように、バビロンは倒れたとのメッセージを繰り返すもう一人の御使は、第三天使のメッセージに追加され、そこから出てくるようにとのメッセージを伝えます。

では、だれがそのメッセージを伝えるのでしょうか。初臨の時を見てください。

声 - イザヤ 40:3-9, ヨハネ 1:19-23

「呼ばわる者の声がある、…声が聞える、『呼ばわれ』。わたしは言った、『なんと呼ばわりしましょうか』。…しかし、われわれの神の言葉はとこしえに変わることはない。よきおとずれをシオンに伝える者よ、高い山にのぼれ。よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、強く声をあげよ、声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え、『あなたがたの神を見よ』と」(イザヤ 40:3-9)。

「さて、ユダヤ人たちが、エルサレムから祭司たちやレビ人たちはヨハネのもとにつかわれて、『あなたはどなたですか』と問わせたが、その時ヨハネが立てたあかしは、こうであった。すなわち、彼は告白して否まず、『わたしはキリストではない』と告白した。そこで、彼らは問うた、『それでは、どなたなのですか、あなたはエリヤですか』。彼は『いや、そうではない』と言った。『では、あの預言者ですか』。彼は『いいえ』と答えた。そこで、彼らは言った、『あなたはどなたですか。わたしたちをつかわした人々に、答えを持って行けるようにしていただきたい。あなた自身をだれだと考えるのですか』。彼は言った、『わたしは、預言者イザヤが言ったように、「主の道をまっすぐにせよと荒野で呼ばわる者の声」である。』」(ヨハネ 1:19-23)。

「ヨハネが引用した聖句はイザヤのあの美しい預言である。『あなたがたの神は言われる、「慰めよ、わが民を慰めよ、ねんごろにエルサレムに語り、これに呼ばわれ、その服役の期は終り、そのとがはすでにゆるされ…た」。呼ばわる者の声がある、「荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る』」(イザヤ書 40:1-5)。

昔、王が自分の領土のめったに訪れたことのない地方を旅行するときには、一団の人々が、王の戦車より先に行き、けわしい道を平らにし、穴を埋めて、王が安全に支障なく旅行できるようにした。福音の働きを例示するために預言者イザヤはこの習慣を引用して、『もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ』と言っている（イザヤ書 40:4）。神のみたまが人をめざめさせるふしぎな力をもって魂にふれるとき、人間の誇りは低くされる。世の楽しみ、地位、権力は無価値にみえる。『神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ』る（コリント第二 10:15）。その時、人人に重んじられていない謙遜と自己犠牲の愛が唯一の価値あるものとして高められる。これが福音の働きであり、ヨハネのメッセージはその一部分であった。」（各時代の希望上巻 150, 151）。

「ヨハネは特別な働きをなすために召された。彼は主の道を備え、このお方の大路をまっすぐにするのであった。主は彼を預言者やラビの学校へ送られなかった。このお方は彼を人の集会から荒野へと連れて行かれた。それは彼が自然と自然の神を学ぶことができるためであった。神は彼が祭司や役人たちの型を受けることを望まれなかった。彼は特別な働きをするために召されたのであった。主は彼にご自分のメッセージをお与えになった。彼は祭司や役人たちのところへ行って、このメッセージを宣布してもよいか尋ねたであろうか。否、神は彼を彼らから引き離された。それは彼が彼らの精神や教えに感化されないためであった。彼は荒野における一つの叫びの声であった。「呼ばわる者の声がある、『荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである』（イザヤ 40:3-5）。これこそ、わが民に伝えられなければならないメッセージである。わたしたちは時の終わりに近い。であるから、メッセージは、王路をきよめよ。石を集めて取り除き、民のために旗印を挙げよ。民は目覚めなければならない。今は平和だ無事だと叫んでいるべき時ではない。わたしたちは『大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ』と熱心に忠告されている（イザヤ 58:1）。」（セクレッド・メッセージ 1 巻 410）。

「わたしたちは霊的な闇のうちにいる人々がいる彼方の地方へ通し進み続けていかなければならない。そのような場所に、主はなすべき働きを持っておられる。『もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである』。

罪人の贖いに障害となるものはすべて、神のみ言葉を聞き、率直な『主はこう

言われる』を提示することによって、取り除かれなければならない。真理が輝きでなければならない。なぜなら闇が地を、全体的な闇が民を覆っているからである。生ける神のみ言葉が、誤謬と対照的にあらわれるべき時が来ている。喜びの知らせを宣布せよ。わたしたちには、ご自分の命を下さった救い主がおられる。それはこのお方を信じる者がみな滅びることなく、永遠の命を得ることができるとのである。主のみ言葉が保証となるようにしなさい。そうすれば働きを妨げてきた障害を取り除かれる。王の王なる全能者、すなわち契約を守られるわたしたちの神には、情け深い羊飼いの優しさと心遣いが結びついている。このお方の道を阻むことができるものは何もない。このお方のみ力は絶対的であり、神の民にとって神のみ約束が確かに成就する誓いとなるべきである。」(ビュ・アド・ハラド 1910年10月27日)

イザヤ40章の預言にある「荒野で呼ばわる声」は、「われわれの神の言葉はとこしえに変わることはない」ことを呼ばわるように命じられています。まさに、バプテスマのヨハネの働きそのものでした。

「ヨハネは答えて言った、『人は天から与えられなければ、何ものも受けることはできない。「わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である」と言ったことをあかししてくれるのは、あなたがた自身である。花嫁をもつ者は花婿である。花婿の友人は立って彼の声聞き、その声を聞いて大いに喜ぶ。こうして、この喜びはわたしに満ち足りている。彼は必ず栄え、わたしは衰える。上から来る者は、すべてのものの上にある。地から出る者は、地に属する者であって、地のことを語る。天から来る者は、すべてのものの上にある。』」(ヨハネ 3:27-31)。

また、その声に与えられたメッセージは、「あなたがたの神を見よ」です。

「ヨハネは、ヨルダン川にバプテスマを受けに来た人が救い主だということに確信がなかった。しかし神は、これが神の小羊キリストだということがわかるしるしをあたえ、彼に約束しておられた。そのしるしは、天からくだったハトがイエスの上にとどまり、神の栄光がイエスのまわりを照らしたときに与えられた。ヨハネは、手をさしのべてイエスを指し、大きな声で、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』と叫んだ。」(初代文集 267)。

「彼は、キリストの初臨に道を備えたことにおいて、主の再臨に民を備えさせる人々を代表していた」(各時代の希望上巻 100)。

「ヨハネは、信仰をもってあがない主を見たとき、自己否認の高さにまでたかめられた。彼は人々を自分にひきつけようとしなくて、むしろ彼らの思いをだんだん高めて、ついには彼らが神の小羊イエスに目を向けるようにした。彼自身は一つの声、荒野の叫びにすぎなかった。」(各時代の希望上巻 213)

「バプテスマのヨハネの働きと、終わりの時代に民をその無気力から目覚めさせるためにエリヤの霊と力のうちに出ていく人々の働きは、多くの面において同じである。彼の働きはこの時代になされなければならない働きの型である。キリストは義のうちに世界を裁くために二度目に来られるのである。世に与えられるべき最後の警告のメッセージを担う神の使命者たちは、ヨハネがキリストの初臨のために道を備えたように、キリストの再臨のために道を備えるのである。この準備の働きにおいて、『もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである。』」(ザン・ウォッチマン 1905年3月21日)。

この声がどこから聞こえてくるのか、もう一度、下記のみ言葉を見てみましょう。

「[もう一人の御使がなす] 大いなる叫び…は力強く、大声で叫ぶ準備をしている者の中から聞こえるのである」(レクテッド・メッセージ 3巻 412)。

「多くの人々がイエスのところにきて、互に言った、『ヨハネはなんのしるしも行わなかったが、ヨハネがこのかたについて言ったことは、皆ほんとうであった。』」(ヨハネ 10:41)。

キリストの初臨の時に成就した預言は、とこしえに変わることがありません。キリストの再臨のために、同じ預言を受け入れる人々の上にも成就します。

ました。このお方が祭司と律法学者を非難し、偽善者、殺人者と呼ばれたことを証明するのは簡単でした。しかしこれはローマ人が耳を傾けることではないでしょう。彼ら自身がみせかけのパリサイ人たちに嫌気がさしていたからです。

キリストに対して多くの告発がなされましたが、証人の意見が一致しないか、または証拠がローマ人によって受け入れられないような性質のものでした。彼らは自分たちの告発に答えるようこのお方に話させようと努めました。このお方はこれらが聞こえていないかのように見えました。この時のキリストの沈黙は預言者イザヤによってこのように言い表されていました。

「彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった」(イザヤ 53:7)。

祭司たちは彼らがピラトの前に自分たちの囚人に対してもたらすことのできるどんな証拠も得ることができないのではないかと恐れ始めました。彼らは最後の努力が必要であると感じました。大祭司は彼の右の手を天のほうに向けて上げ、厳粛な宣誓の形式でイエスに問いかけました。

「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」(マタイ 26:63)。

救い主はご自分の使命や天父との関係を否定なさいませんでした。このお方は個人的な侮辱には依然として沈黙なさることができましたが、ご自分のお働きや、神のさまがご自分を息子であるとお呼びになったことの質問には率直に、はっきりと述べられました。

だれもが耳をそばだて、すべての目がこのお方にじっとそそがれました。このお方は答えて「あなたの言うとおりである」。

麩ときゅうりの酢の物

■材料

煮込み麩	20 枚
きゅうり	3 本
乾燥わかめ	大さじ 2
(調味料)	
粗糖	1 / 2 カップ
レモン	1 / 4 カップ
塩	小さじ 1
昆布粉末だし	4g
すりごま	45g
しょう油	少々

■作り方

1. 水で戻した麩を軽くしぼって、一口大に切ります。
2. きゅうりは塩もみします。
3. わかめは水でもどす。
4. 麩ときゅうりとわかめを一つのボールに入れて、すべての調味料を入れて混ぜます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第39話

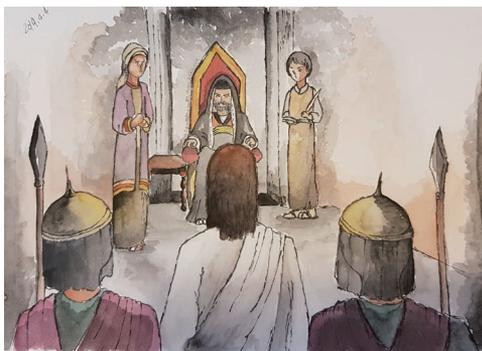
アンナス、カヤパ、そしてサンヒドリンの前で(II)

アンナスの家から救い主はカヤパの所へ連れていかれました。このお方はサンヒドリンの前で裁判を受けなければならず、そして議員たちが共に呼び出されている間にアンナスとカヤパはまたこのお方に質問をしました。しかし彼らはなんの利点も得ることができませんでした。

サンヒドリンの議員が集まっているとき、カヤパは議長の席につきました。両側に審査員がいて、前に救い主を守るローマの兵卒、後ろには告発する暴徒がいました。

そこでカヤパはイエスさまにこのお方のなされた力ある奇跡の一つを彼らの前に働くように言いました。しかし救い主はこのお方が言葉を聞かれたという仕草をなさいませんでした。このお方が宮において売る人買う人になされたような魂を探るような目でお答えになったなら、殺人的な群衆はみなこのお方のみ前から逃げずにはいられなかったでしょう。

ユダヤ人はその時代ローマ人に支配されていたので、誰をも罰することは認められていませんでした。サンヒドリンができるのは囚人を取り調べ、そしてローマの権力によって承認される裁判だけが通ることができるのでした。



彼らの邪悪な目的を達成するためには、彼らはローマの支配者によって犯罪だとみなされる何かを救い主に対して見つけなければなりません。彼らはキリストがユダヤ人の伝統や多くのしきたりに反対して語られた十分な証拠を確保してい

(45 ページに続く)